

経営者として知見を深める多彩な活動を展開

産業懇談会を紹介する第2回目は第1木曜と第2火曜グループを取り上げる。両グループが行っている貴重な話が聴ける講演や、なかなか訪れることができない施設見学など多彩な活動ぶりを披露し、一人でも多くのご参加を、と呼び掛けている。

第1木曜グループ

メンバーの血と汗と涙の講演が好評 お試し参加者のほぼ全員が入会

■設立:1974年11月 ■メンバー数:80人

世話人



北原 義一

三井不動産
取締役副社長執行役員



田中 廣

タナチョー
取締役社長



長谷川 隆

日本証券協会マネジメントセンター
取締役会長

「第1木曜グループ」は多士済々、しかも一家言お持ちの方ばかりなので、講演を聴くだけではなく、見事にその内容を咀嚼した上での議論も進み、例会はいつも自然な形で盛り上がります。世話人としてやることはありません。それだからこそ、お試しで1木を覗いてみた方のほとんどがそのまま入会しているのです。

さらに1木は原則として、外部の講師はお呼びしません。メンバーが各業界を代表する論客ぞろい、しかも、自分たちの血と汗と涙に基づいた体験を語るため、内容が濃く説得力に富む話が聞けるからです。メンバー同士、気心が知れていることも盛り上がる一因です。1木は80人の大所帯なので、中にはやむを得ず例会に欠席を続けられる方も出てきます。そういう方に講演を依頼すると、それ以降の参加率も高まります。

コロナ禍以前は夜の例会も四半期に1度開いていました。会場はメンバーの関係するレストランやホテルなどが多く、自社のPRにもなります。夜の例会も好評なイベントだったため、今後も続けていきたいと思っています。昼、夜の例会を通じ、ビジネス上のお付き合いが拡大することも産懇に参加する利点だと思います。

ところで、私は今の状態をニューノーマルならぬアプノーマルと呼んでいます。三密回避は必要ですが、古来の人間の本性である「お互いが感じ合うこと」が欠かせないと思います。そのためにも「安全で安心な三密」を作ろうと考えていますし、そのような気概を持った方に、1木に加わってもらいたいと切に思っています。

【北原 義一】

第2火曜グループ

経済・時事中心に講演テーマ設定 自由闊達な意見交換も魅力

■設立:1979年11月 ■メンバー数:40人

世話人



西村 豊

カーライル・ジャパン・エルエルシー
シニアアドバイザー



増山 美佳

増山&Company合同会社
代表



森谷 弘史

マレリ
会長

「第2火曜グループ」は金融をバックグラウンドにしたメンバーが多いことから、定期的な経済見通しを語る機会を設けています。また、米中問題など時事的なテーマでの講演も多く、人材の多様なネットワークを活かした活動を展開しています。講演終了後は自由な意見交換が行われ、良い仲間と共に有用な話が聞けることが魅力です。そんなところが、多忙な中でもスケジュールを確保し、出席する動機でしょう。

テーマ選定は年初に活動計画を立て、ESG、地方創生、昨年は東京オリンピック・パラリンピックに向けた話題として、皆さんが興味をそそるよう工夫を凝らしています。一般的には訪れることが難しい場での例会も検討しています。由緒あるお寺を借り切って精進料理を味わうなど、懇親の良い機会になるはずです。

印象に残る講演としては、宇宙開発ベンチャー企業の方の行った月面探査の説明です。探査車両を持ち込んで操作も行い、向こう30年くらいの開発計画を披露していただきました。ただ、話を聞くだけでなく、探査車両を目の前にしての講演なので分かりやすく、産業懇談会の他のグループにも紹介したほどです。

コロナ禍で例会は安全第一が最優先です。リスクを避けることで、例会を継続していくことが大切だからです。もちろん、実際に例会に参加し、その場の空気や談笑ぶりを共有することが望ましいわけで、そのような日々が戻ってくればよいと願っています。課題としては、現在のメンバー数を増やし、なおかつ出席率を高めることです。

【西村 豊】